

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2016.11.5)

河口無線で開催されたファルコンラボのスピーカー**MODEL707**の試聴会に行ってきました。

日時：11月5日 PM1:15～PM3:00

会場：3F ハイファイディリティ試聴室

<使用機材>



ファルコン スピーカーシステム model-707 ¥2,160,000 (ペア)



LUXMAN SACD プレーヤー D-08u ¥1,188,000



ラックスマン プリアンプ C-900U ¥1,188,000



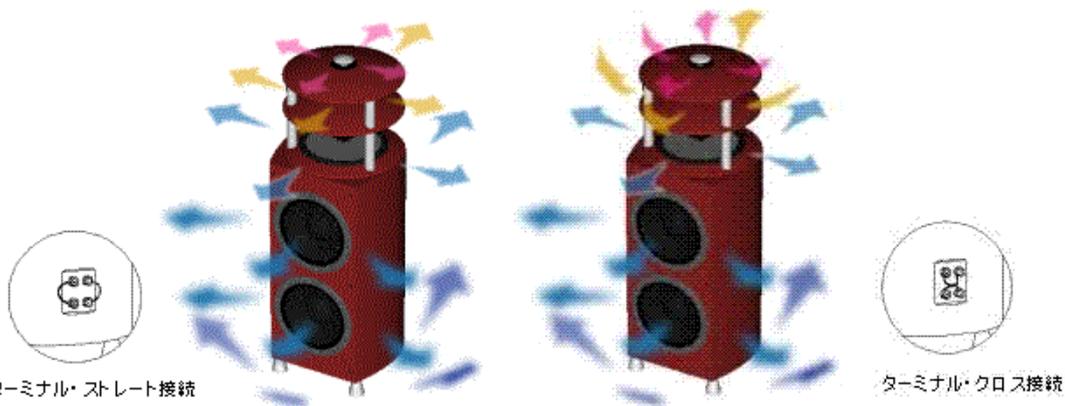
ラックスマン パワーアンプ M-900U ¥1,188,000



当日のセッティング

<試聴の経過>

メーカーホームページによれば、オムニ・リフレクション・ガイドの効果により、360度の音圧指向特性を実現し、これにより臨場感に満ちた音場空間を再現するとあります。また、接続を替えることにより、音の放射方向を替えられるとありますが、このデモはありませんでした。



なお、事前のHPの情報では、上記のとおりLuxのプレイヤーとアンプを使用することでしたが、PCのHDDの音源をUSB経由でCDプレイヤーのDAC部に入力し、ファルコンラボオリジナルの300Bppアンプで駆動するようになっていました。このアンプの販売も検討中とのことでした。

まず、最近発売されたPCオーディオ用のマイクロスピーカーModel20biのデモがあり、PCと直接繋ぎ、USBケーブルの途中に入っているバスパワーで駆動するミニア

ンプで駆動して試聴が行われました。5cm フルレンジ一発のスピーカーですが、女性ボーカルでそこそこの音は出ていました。

次にブックシェルフの2機種 Model201 と Model301 のデモに移り、それぞれジャズ、女性ボーカル、ヴィヴァルディの四季がかかりましたが、ともにブックシェルフとしては上質のクリアーで広がりのある音がしていました。Model201 では箱鳴りにより低音がこもりがちでしたが、Model301 ではそれが払拭されてスケール感も向上しました。

次にトールボーイの Model401 に繋ぎ替えが行われ、先程と同じ3曲に加えてヴァイオリン協奏曲がかかりましたが、やはりブックシェルフに比べるとスケール感が出てバランスも向上します。オムニ・リフレクション・ガイドの効果による360度の指向特性により広がり感は申し分なく、聴く位置によっても音が変わりません。音源はCDからリップングしたものなどのPCからの送り出しですが、予想外にヴァイオリンの艶なども出ています。

ここで最上位の Model707 のデモに移り、Model401 の時と同じ4曲がかかりましたが、さすがにスケール感が違い迫力はあるものの、360度の指向特性による広がり感が強すぎて、楽器の音像が過大になるきらいがあります。

本日の目的とされていたらしい来年早々発売予定の Model No.未定のスピーカーに移り同じ曲がかかりましたが、Model707 より引き締まって緻密な音がしていました。このスピーカーはリアバスレフで最初はポートを塞いで聴き、ついでポートを開放して聴きましたが、それほど印象は変わりませんでした。

一連のモデルを聴いた総合的な印象としては、360度の指向特性の功罪があつて、大型になるとスケール感が増すものの音像が大きくなりすぎるところがあり、Model401 かブックシェルフの Model301 くらいをサブシステムとして使うと、広がり感が心地よく聴けるのではないかという印象でした。

なお、メーカーの開発時の試聴用に設計された300Bppアンプのクオリティが好ましく、PC音源のクオリティを補っていたように感じましたので、正規発売品となった場合にしっかりしたデジタルプレイヤーやアナログとの組み合わせで聴いてみたいと思います。

以上